

国際農業開発学科

1. 教育研究上の目的

本学科は自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配し、さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、「専門性を活かした総合的アプローチ」をモットーに、農業・農村開発協力を通じて、地球規模に貢献のできる人材を育成する。

2. 教育目標

国際農業開発学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 国際社会に関する幅広い知識と、農業・農村開発に関する専門知識を有する者
- (2) 現状分析、問題点の把握、問題解決のための企画立案および計画遂行を行う能力を有する者
- (3) 政府機関、研究教育機関、民間企業等で国際的な活動を行う素養と実力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

国際農業開発学科は、農業・農村開発を通じて国際的に活躍する人材を育成するため、以下の要件を満たし、さまざまな分野で国際的に活躍する能力を身につけている学生に対し、学位を授与します。

- (1) 自然科学と社会科学の両領域にわたる熱帯生物生産分野、熱帯農業環境分野、農業開発経済分野、農業協力普及分野の幅広い基礎的・専門的な知識を修得し、また、実践的な技能や技術を身につけ、国際的な農業・農村開発協力のために積極的に活動することができる。
- (2) 他国の文化・社会・習慣などの多様性に十分な知識と理解を有し、柔軟な思考力と判断力、さらにコミュニケーション力を身につけ、国内外のどの地域でも自己の能力を発揮して社会に貢献することができる。
- (3) 「農業」、「生命」、「食料」、「環境」などに関わる専門性を活かし、国内外の多種多様な社会において、パイオニア的存在として活躍することができる。

4. カリキュラム・ポリシー

国際農業開発学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 自然科学・社会科学両領域にわたる専門教育科目を配当する。
- (2) 開発途上国あるいは熱帯農業を視野に入れた専門教育科目には、専門基礎科目、専門コア科目、総合化科目を配当する。

- (3) 国際協力に必要な語学や、海外の現状を理解するために必要な知識を修得する科目を配当、推奨する。
- (4) 実践的な知識や経験および技術を身につけるための実習科目や実験科目を配当する。
- (5) 情報収集から発表までの能力を高めるための演習科目を配当する。
- (6) 情報収集、計画立案、研究の実施、結果の考察、論文の執筆および発表までを通して論理的思考を養い、自らの学修成果をまとめる「卒業論文」を配当する。
- (7) 専門教育科目には、入門編として専門基礎2科目と専門コア科目の必修11科目を配当し、高い専門レベルでは専門コア科目の選択科目により難易度あるいは内容の深化に配慮し、また、希望の職種あるいは進学に対応できるよう適切に選択、組み合わせができるように配当する。
- (8) 講義・実験・実習・演習科目のいずれにおいても、課題を発見し、その解決に取り組む手法を理解するために、アクティブラーニングあるいはPBL(Project Based Learning)の手法を積極的に取り入れ、現場との密接な連携を可能にするよう配慮する。

5. アドミッション・ポリシー

国際農業開発学科では、環境保全に配慮した農業・農村開発を推進するために必要な教育・研究を行うとともに、グローバルな視点で農業開発を実践する人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 日本の高等学校卒業程度の英語、理科系科目、国語、社会系科目の基礎学力と必要な知識を修得している。
- (2) 開発途上国の農業・農村開発に関心があり、国際協力のために積極的に活動する意欲や、国際社会に貢献する希望を有している。
- (3) 異文化理解のための柔軟な思考ができ、多様な人々と協働するためのコミュニケーション力を有している。